

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4290100082
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 長崎支店
事業所名	グループホーム 小ヶ倉
訪問調査日	平成 19 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 25 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100082
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 長崎支店
事業所名	グループホーム 小ヶ倉
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市小ヶ倉町3丁目76-27 (電話) 095-898-5111

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000円/月 冬季・夏季空調費2,000円/月
敷金	有() 無	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (20万 円) 無		
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 8月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深堀内科医院、藤田外科医院、ながはま歯科医院、すがさきクリニック、十善会病院、長崎記念病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境に位置し、利用者は日頃から買い物や散歩の際に近隣の方々と挨拶や会話を交わし、地域の行事や活動にも参加している。更に近隣の子どもたちとのふれあいの機会や自治会等への加入の検討を行ったり、運営推進会議を開催したりして、地域密着型サービスとして、地域の理解と協力関係を深めていくことを目標に日々努力されている。

また、担当職員を決めてなじみの関係を築くよう心がけ、利用者は人生の先輩であるという考え方を職員間で共有し、普段から利用者に調理の技や工夫などを教えてもらうなど、互いに支え合う関係づくりにも努めている。

管理者と職員が一丸となって、住み慣れた地域、家庭的な環境での利用者の安心できる暮らしのため、なじみの関係やその人らしさ、利用者一人ひとりの力を活かしていくことなどをテーマとした理念のもと、利用者一人ひとりを尊重し、それぞれのペースに合わせた支援に努めているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の評価が初回である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は共に、自己評価、外部評価を前向きに捉え、サービスの改善、質の向上を目指し、常に、日々のケアを振り返り、見直しをし、外部評価をサービスの質の確保に活かしていこうという姿勢で、外部評価に臨んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、現在まで1回開催されており、主な内容は、ホーム側からのグループホームの意義、役割、地域密着型サービス等に関する説明と、地域との連携に関する意見交換であった。利用者家族から「子ども達や地域とのふれあいの機会を設けて欲しい」という提案があり、地域の人々や子ども達(園児、小学生)とのふれあいの場について検討がすすめられている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者家族の意見、苦情、不安への対応については、常に親しみをもって話しかけたり、問いかけたりしながら、何でも気軽に話してもらえる雰囲気づくりに留意されており、家族等から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケア等に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は、日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、会話をしたりしており、職員も普段の挨拶はもちろん、周辺のゴミ拾い等を通して近所の人々と顔なじみになるなど、関係づくりに積極的に取り組んでいる。また、自治会の加入、老人会との交流についても検討しており、地域住民のふれあいの場の提供や地域の行事や活動への参加についても検討されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域において、家庭的な環境での安心した暮らしを支えるため、職員が利用者に常に寄り添い、なじみの関係、その人らしさ、利用者一人ひとりの力を活かしていくことをテーマに独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングや申し送りなど、機会あるごとに理念に触れ、職員同士で共有し合うよう努力しており、目で見、声に出して、耳で聴いて確認し合い、職員の意識の向上を図っている。また、具体的なケアについても、理念と根拠を明らかにし、職員の意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、日常的に買い物や散歩などに出かけ、近隣の人たちと挨拶したり、話をしたりしているほか、職員も日頃の挨拶だけでなく、周辺のゴミ拾いなどを通して、顔なじみになっている。また、自治会への加入、老人会との交流などの検討も進めている。	○	自治会への加入や老人会との交流などの検討を進めるなど、地域との付き合いに積極的な姿勢が見受けられるので、具体的に取組まれ、地域の行事や活動を通して交流を深め、ホームと地域の人々がともに支え合える環境づくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は共に、外部評価を前向きに受けとめ、サービスの改善、質の向上を目指し、常に日々のケアを振り返り、見直しを行っており、外部評価をサービスの質の確保や改善に活かしているという姿勢が見受けられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者1名、家族2名、民生委員1名、包括支援センター1名、ホーム側3名のメンバーで第1回目が開催され、議事録もきちんと整理されている。家族からの「子どもたちや地域の人々とふれあう機会を設けて欲しい」という意見に対しては、ホームの行事等に参加してもらえるように近隣の住民や幼稚園、小学校等に声かけをするなどの検討を進めている。		

長崎県 長崎ケアハートガーデングループホーム小ヶ倉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口には、手続きや問い合わせ等で訪問する機会があるが、地域密着型サービスの充実に向けた関係づくりという観点から、事業所の実情やサービスの取り組み等に関する情報提供や共有に向けた取り組みは十分行っていない。	○	市の担当課に対して、ホームの考え方や現場の実情等、積極的に伝える機会をつくり、地域密着型サービスとしての連携に取り組み、職員や利用者との交流も図れるような関係づくりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度定期的に、利用請求書、ホーム便りを家族等に送付しており、個別に担当職員から写真や手紙を添えたり、電話をしたりして、利用者のホームでの様子を伝えている。また、家族の訪問時に写真を見てもらったり、生活ケース記録や金銭出納帳を確認して家族からサインしてもらったりしている。	○	家族が知りたいことについて、十分配慮しながら現状報告をされているが、職員の異動等についても情報提供に取り組まれるとさらに効果的ではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の訪問時に常に親しみを持って話しかけたり、問いかけたりするとともに、手紙を書くことなどで、何でも気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに留意しており、家族からの意見や要望等は、申し送り、ミーティングの際に話し合い、日々のケアなどに反映させている。	○	家族会など、家族同士の集まりの場を設け、家族同士で意見を出せるような仕組みづくりの検討をされることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、担当職員を決め、なじみの職員によるケアを心がけている。職員のユニット間での異動があった場合は、引継ぎの面からも、しばらくの間担当職員は両ユニットに勤務し、利用者が不安や不満を抱くことのないよう最善の努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるように、勤務の調整などに配慮しており、研修の報告は、定例の全体会議で発表するとともに、研修報告書を作成、回覧し、職員が閲覧して、研修内容を共有できるようにしている。また、事業所内においては、学習会や交流会を積極的に行い、ケース検討やスタッフ研修を設けて、質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会があり、その会議に参加し、事業所同士の協働、交流について学ぶとともに、質の向上に努めている。また、近隣のグループホームを一度見学したが、その後の交流を持つまでには至っていない。	○	事業所内はもちろん、地域全体として、それぞれの事業所の質の確保、サービス水準の向上に繋げていくことができるように、他のグループホームと交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会が、日々のサービスの質の向上や職員育成に活かされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心し、納得してサービスを受けられるように、「寄り添うケア、なじみの関係」を大事に考え、家族やこれまで関わってきた人々に相談し、繰り返し宿泊や来訪してもらいながら、利用者が少しずつホームの雰囲気馴染めるように努めている。また、馴染みの家具などを置いて、できるだけ家庭との違和感がないような雰囲気づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員間で共有し、利用者の喜びを知るように観察などに努め、場面づくりや声かけに配慮し、利用者と共に支えあう関係づくりを行っており、普段から利用者に調理の技や工夫などを教えてもらう場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で声かけを行い、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得たり、寄り添いながら声をかけ、表情や言葉などから意向を汲み取るように努めている。また、利用者がどこで誰とどのような暮らしをしたいか、利用者本人にとって何が最善かなどについて、家族を交えた検討も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、日々の関わりの中で利用者や家族の思いや意見を聞き、それを介護計画に反映しており、利用者が自分らしく暮らせるよう、アセスメントも含めて、全職員で意見交換やカンファレンスを行い、より具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、状態変化や利用者、家族の要望に応じた随時の見直しも行われており、記録もきちんと残されている。また、日々の支援は介護計画に基づいて行っており、職員の気づきや意見は、申し送りノートに記録され、朝夕の申し送りやユニット会議等で随時検討している。		介護計画の内容については、家族に報告して確認のサインをもらっているが、更に、介護計画の見直しの際には、家族にも参加してもらい、共に話し合いながら作成されるより充実するのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院やリハビリに同行するなど、利用者や家族の状況、要望等に応じて必要な支援を行っており、利用者一人ひとりの満足感を高めるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族が希望するかかりつけ医を受診しており、受診の際は、基本的に家族が同行しているが、状況や希望に合わせて職員が同行することもある。また、協力医の訪問診療が受けられるように協力医療機関と密に連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の重度化や終末期に関するホームの方針については、入居時に説明し、理解を得ている。今後の予測と方針は、家族や利用者の思い、希望などについて繰り返し話し合いを行い、かかりつけ医や協力医療機関に相談し、連携を図りながら、全員で方針を共有するように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に利用者一人ひとりに尊敬の念を持って接しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、勉強会やミーティングの折には、プライバシーの確保や徹底について話し合い、職員の意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、何時から何をするなどと時間を区切った過ごし方はしておらず、利用者の体調に配慮しながら、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して、できるだけ一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。また起床や食事の時間なども、制限なくゆっくと楽しめるように見守りながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、調理、盛り付け、片付けなどを行い、職員も同じテーブルを囲んで食事をとり、利用者が食事を楽しめるように雰囲気づくりを大切にしている。また、食べこぼしがあった場合のサポートもさりげなく行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日などは職員が一方的に決めるのではなく、利用者が入浴したい日、希望する時間帯に、自由に入浴を楽しめるように支援している。また、利用者の体調に合わせて足浴なども行っており、一人ひとりの希望や状況、体調に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、利用者一人ひとりの楽しみや役割を見つけて得意分野で力を発揮してもらえるように、利用者がそれぞれにできることはお願いして、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、職員主導ではなく、利用者と相談しながら、利用者の希望に合わせて、外出や買い物、ドライブ等の楽しみごと支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に応じて、できるだけ外気にふれ、肌や目で季節を感じてもらい、心身の活性化につながるよう、日常的に散歩や買い物、ドライブ等に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者一人ひとりのその日の気分や体調をきめ細かく把握するなど見守りを徹底し、日中は玄関の鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。また、職員は利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声かけをして同行するなど、安全面にも配慮した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に2回消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。訓練の記録も残されており、また、地域住民の協力を得られるよう働きかけも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は、生活状況ケアプランチェック表に一日を通して記録し、職員間で情報を共有している。また、利用者一人ひとりの嗜好を把握し、栄養バランスや食材にも配慮している。		定期的に、栄養士等に専門的なアドバイスをもらうなどの取り組みをすると更に充実していくのではないだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間などの飾り付けや居間、食堂の家具の配置には、利用者が自分の住んでいる家だという意識を持ってもらえるような工夫をされており、居間には、利用者のお気に入りの椅子を置くなど、過ごしやすい居場所の確保に配慮している。また、利用者にとって不快な音やまぶしい光などを感じることなく、ゆったりと過ごせるように工夫している。		居室の表札とトイレの表示が利用者の目線より高いように感じられるため、利用者の目線に合わせる配慮をされ、また、玄関周りには、尋ねる人の心を和ませるような季節の草花の鉢植えを置くなどの工夫をされると、さらに居心地のよい空間づくりができるのではないだろうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、利用者と家族が相談しながら、それぞれの好みのベッドやカーテン、馴染みの調度品などが持ち込まれている。		